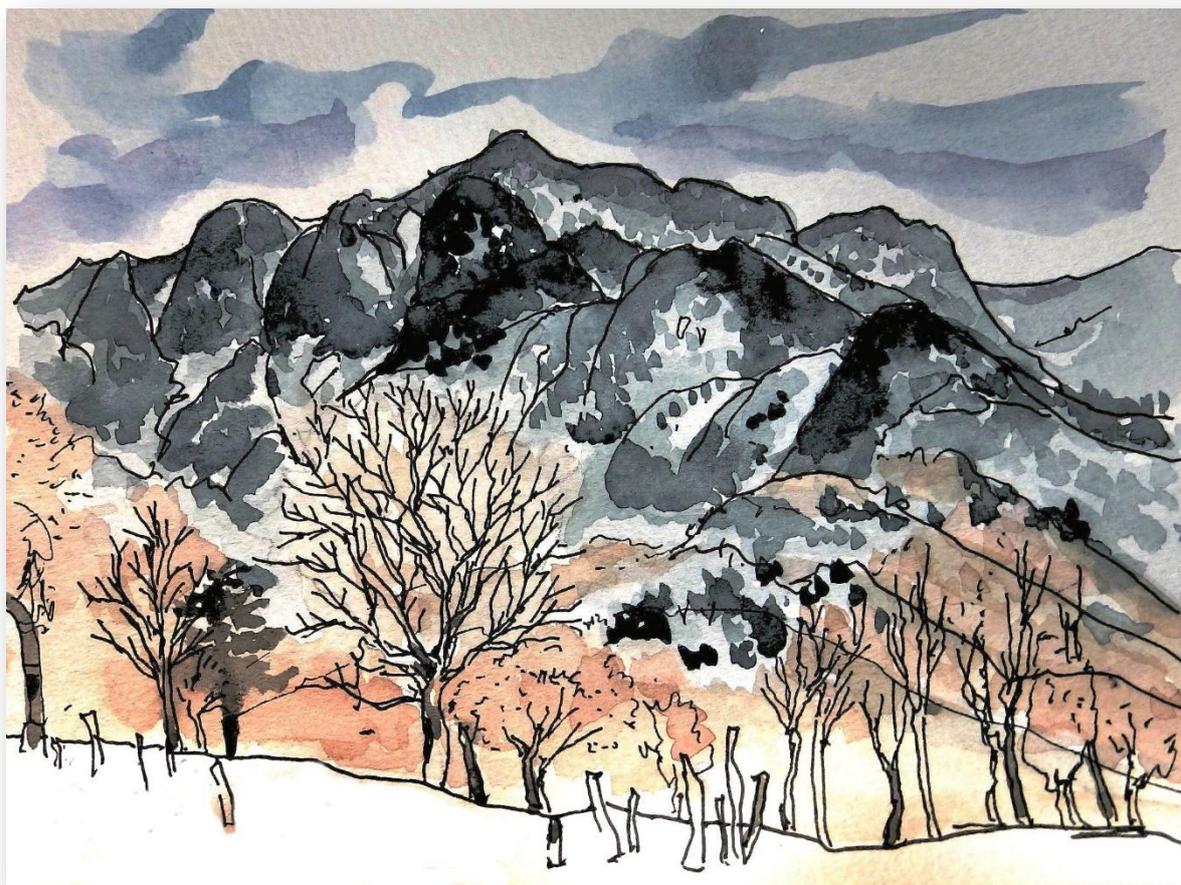


八剣山の会春秋

新年号

平成28年1月元日

「八剣山の会春秋・編集部」発行



<大普賢岳> 画・小西益樹

記憶に残る登山シーン

2015.11.25 美浪敏明

●弥山川の梯子



2013年8月20日

弥山の沢登り、長く続く鉄梯子に足が竦む！

● 堅田の浮御堂



2015年4月23日

湖族の郷の浮御堂は落雁が良く似合う。点景にはやはり雁が良さそうだ。

● 妙高山

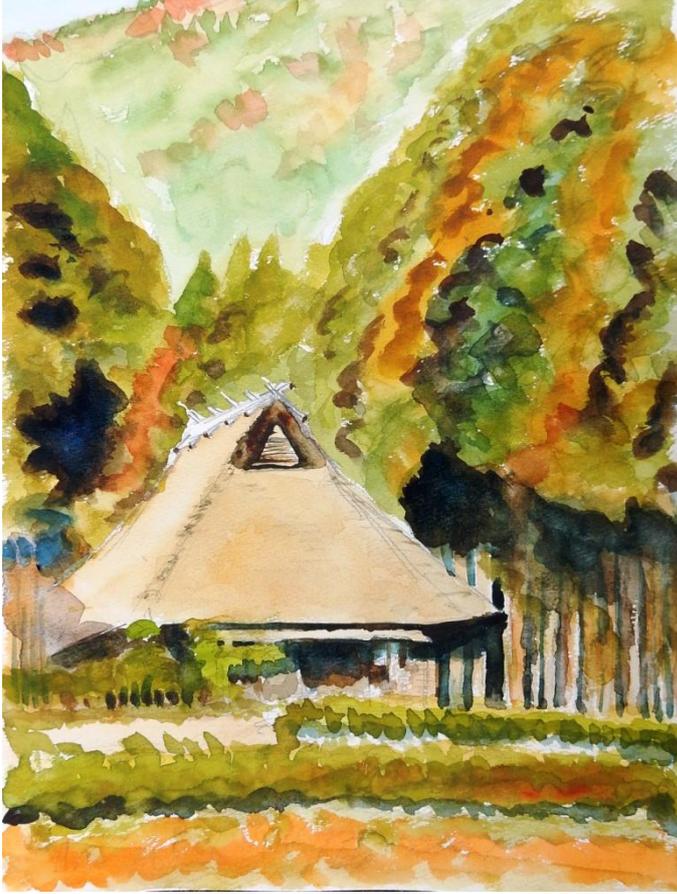


2015年8月2日～4日

百名山に相応しい懐深い変化に富んだ山だった。
鎖場あり、滝があり、花畑あり、下山時には夕立で下着までずぶ濡れに。
これも楽しい思い出です。



●葛川坊村の民家



2015年10月24日

秋の日を受けて
茅葺きの屋根は
黄金に輝いていた。
冬には数メートル
の雪が積もるそうです。

●北比良峠より近江舞子を望む



2015年10月24日

武奈ヶ岳の下山路
は紅葉に彩られ
山から湖を望むと
疲れを忘れます。
芒の穂を越しに
沖島がかすかに
見えていた。

～完～

修行の道体験ウォークに参加して

2015.11.26 野田庄次

平成27年10月28日、修行の道体験ウォークに参加しました。
なんでもやりたがりなのです。



民間信仰の山、聖地巡礼、この世の果て、地の果て、恐山、青島、高千穂、高天原、熊野、吉野等深く知りたいと思いその第一歩として参加しました。聖地体験の中で水の聖地奈良県吉野郡天川村の天川弁財天、吉野蔵王権現、熊野三山、等があります。

今回は体験ウォークは短いですがいろいろと勉強になりました。

神仏習合、天川弁財天とゆう水のインドの神オンサラバテ、吉野川の金剛界と熊野川の胎蔵界と合体するところの中央に天川弁財社がある。





道中に五番関の入口に女人結界のおおきな看板が掲げてありました。
その看板の最初の文字がこすられて消えかかっていたいました。



今後の研究テーマにします。

(完)

何時の頃からか密かにこの花の自生している処を見たいと思うようになっていたが、同時にそれは遠い夢であった。このケシの花弁が青色というのがどこか空の断片のようでもあるし、酸素の希薄な極めて高所に在ることがますます近づき難い存在になっていて、私にとっては文字通り高嶺の花であった。

今では青いケシを国内でも見る事が出来るようになった。

例えば5月頃六甲の高山植物園へ行けば見られるし、一度は夏の信州の清里高原を歩いていて、何気なく咲いているのをみて驚いたことがある。これらはもちろん栽培されたものである。

私が初めて自生地でこの花を見たのは、夏のチベット旅行であった。

チベットの首都ラサの東をトレッキングしていた時のことである。ラサ空港は既に標高 3570m。ここで降り立ちすぐに高山病の症状が現れてそのまま何処へも行けず引き返す旅人もいる。普通はラサで2泊くらいして高度順化するのであるが、初日に大抵の人が高山病の洗礼を受け、花柄の洗面器の厄介になる。高山病とは、一般には高度 2500m 以上での (70 歳以上の高齢者は高度 2000m 以上) 酸素不足が招くといわれる。初期症状は頭痛や発熱、不眠や嘔吐などで風邪の症状に似ている。しかし重篤になると意識が混濁し生命に危険が及ぶことがあり、これもチベットが秘境と言われる一因かもしれない。

ラサの北東にあるガンデン寺から南のヤルツアンボ川 (ガンジス河の源流の一つ) 近くのサムエイ寺までの 60km。途中二つの峠を越える 2 泊のトレッキングである。一つ目の峠はショガ・ラ (5240m) 二つ目はチト・ラ (5090m) でその間には高層湿原のほか点在する池や川がある。なお現在ではこのルートへの立ち入りは中国の国内事情から禁止になっているらしい。

我々のメンバーは男 2 人女性 3 人にチベット人の若い有能なガイド「ジャートイ」と (ヤク) を扱える現地の案内人で屈強な「チャゴ」の計 7 名。これに途中数匹の馬とその馬子が加わったり又別れたりしながらの旅であった。

(ヤク) というのは標高 4000m を越えるところに生息するウシ科の動物で昔からチベット人はこれを貴重な家畜として利用している。家畜と云ってもヤクは半獣で、我々のテントや毛布、食料、鍋釜、燃料や個人の大型リュックをこの背に縛り付けて運んで行くのだが、全部で 6 頭。これがなかなか思うようにならない、途中で荷を振り落としたり、ばらばらに斜面を駆け上がり草場に突進したりする、従って出発の際に集めるのにもかなりの時間を要する。しかしヤクは力が強く岩場を歩くのは得意である。馬は途中どこからからとなく表れて我々を助けてくれた後、峠の手前まで来ると引き返してゆく。馬は川を渡るときに使い、途中で歩けなくなったメンバーを乗せるためである。

メンバー 5 人は前回のチベット旅行で知り有った男性 T、彼は私より 2 つ年上で、繊細と豪快さが入り交ったような愉快な人物で酒好き、話好きなうえ植物名もよく知っていて私とよく気が合った。

女性はいずれもかなり年下だがリーダ格の Y とその友人で気立ての良い M それに E。

特に E は登山歴も豊富で水泳も得意、日頃からトレーニングを怠らない、頭のすっきりとした人でトレッキング中、渡渉する以外馬を使わないで歩き通したのが E と私のみであった。

途中民家は無く、夏の間だけ「ヤク」を連れて草が茂る高所まで登ってテント生活をしているチベットの遊牧民が僅かにいるのみである。他にこのルートで遭遇したのはガイドも付けずに歩いていた男女 2 人のヨーロッパ人のみであった。

全行程 60 km を歩くのはさすがに無理で最初は車で行けるガンデン寺から少し先の村まで、最後はサムイェ寺まで徒歩 6 時間の距離を彼らがショブーと呼んでいる小さなオート三輪に乗った。しかしこれが大変な代物で座席などはなく狭い荷台に人も荷物も折り重なって詰め込まれ、身動きが取れない。動き出して間もなく積み荷の重さと悪路に堪らず車のハンドル軸が折れたり散々な目に合った。

二日目の夕食後にジャートイがチャン (パイチュ) を小さな茶碗に注いで、これはよく眠れるからといって持ってきてくれた。高所では高山病を発症しやすいので飲酒は厳禁のはずである。しかし私は体調も良く

旅特有の高揚感も手伝って度数50を超えるその蒸留酒を飲んだ。そして効用どおり？この夜は寒いテントながら十分眠ることができた。

Tは渡渉しながら馬の手綱を握ったまま意識朦朧として危うく水中に落ちそうになったり、あとの二人も旅の後半は殆ど馬上の人となっている。途中遊牧民の家族が暮らすテントで休息をとったが全員疲労困憊で頭を上げるのも億劫な様子で眼がウツロになっている。主婦が盛んにヤクの糞を燃やして沸した暖かいバターティ（茶）を振舞ってくれるが疲労しているので到底飲めたものではない。疲労回復にはこれを飲まねばならぬ！のだが。普段でも我々の味覚に馴染みにくい？この独特の風味がするバターティはヤクの乳に煎茶の葉を入れて木製の長い筒の中で何度も突き混ぜて作り、チベット人なら誰もが日常飲んでいる。乾燥地に住む、野菜類のない彼らの唯一貴重なビタミン源である。二度目のチベットなので私もやがて飲めるようになったが、この香りは今もなお強く記憶に残っている。勇気を出して身体を無理やり起こし、重い足を引きずって先を急がなければならない。煙たいテントから外へ出るとすでに三頭の馬が待っていた。

途中幾度か濃い霧が出た。「歩き」の私はどうしてもガイドや馬に乗った3人には遅れをとる。飛ぶように歩いてもなかなか追いつかない、特に私は風景や植物に気がいっているのでEからも遅れがちになる、足元には湿った堅いこぶ状の永久凍土の土壌が延々と連なり歩きにくく何度も先頭を見失いそうになった。こんなところでもし迷ったら・・・との不安が何度も頭をよぎる。

○ 初めて見た「青いケシ」

最初の峠、ショガ・ラを下りながら目の前には樹木の全くない広大な山地が何処までも広がっている。足元のガレ場に注意を払いながら歩いていると道が窪んで左側に岩の堆積物が壁になった処が現れた。よく見るとその上に小さな一株の青いケシが咲いているではないか！まるで私を待っていたかのように。そおっと辺りを見回したがこの一株だけである。馬とヤクそしてガイドや4人はずっと先の方を進んでいる。青いケシは群落を作らない、他の草とも共存しない、土壌のほとんど無いガレ場に孤立して咲くところは日本のコマクサに似ている。山に漂う霧にぬれてその青い花びらが鈍く透き通るように光っている。花弁は二輪ともややうつむき加減に開いていて、蕊が雨や霧にぬれるのを避けて受粉しやすくするためという。青いケシはいわゆる雨の多い季節のみ咲くのだ。そして茎や蕾にある長い棘にも水滴が光る。乾燥地ではこうやって水分を得ている。棘はヤクなどに食べられない為に進化したものの様である。しかしここでは初めて花と出会えた嬉しさに浸っているゆとりは無い。急いでシャッターを切ったのがこの写真である。

<青いケシの花>



余談なのだが、活発だったEはその後認知症を発症し、現在郷里に帰って静かに療養中という話である。この旅の風景も青いケシの思い出も全て何処かへ消え去ってしまうのであろうか。

<下ってゆくメンバーの4人と馬たち>



<我々の荷を運ぶヤクたち>



初めての海外旅行・海外住宅事情調査団レポート

林田俊彦

今はやりのエンディングノートの一環で私の履歴書の一つとして今回は仕事からみの初めての海外旅行をまとめてみた。

小生、(株)淀川製鋼所に1967年に入社、初めての大学卒の建築出身で社長の息子が企画部(後の建材開発部)で戦後発展した会社は消費者を対象にした業種(プレハブメーカーなど)と知り、住宅用建材の開発に力を入れるとの方針で採用された。

早くから日本全国を回って主力の生産の鉄板を使った住宅用屋根材の開発の市場調査を命じられる。

結果は退職までには非住宅の工場、体育館などの長尺鉄板屋根・壁材のトップ企業になる。仕事の経歴については省き本題の海外旅行について記す。

1974年頃、関西のプレハブメーカー、積水ハウス、ダイワハウスなどと建材・設備メーカーを中心に、関西住宅懇話会を設立“ハウス55”というプロジェクトを建設省に働きかけ、その一環として当時建設省から大阪府の建築課長として派遣された松谷蒼一郎氏(当時の総理大臣の田中角栄の寵愛を受ける、後に長崎県知事になる)を団長として懇親を図るべきこのツアーが企画される。

メンバーはダイワ、ミサワ、積水化学(セキスイハイム)クボタ、松下電工(ナショナル住宅)大林組、竹中工務店、大阪ガス、ノーリツ、リンナイ、東陶、日本鋼管、三協アルミなど21社、課長以上が参加資格だったが上司や先代の社長の息子の計らいで小生が派遣される。皆、部・課長、取締役などの役が付いている、小生はペイペイでこのためにだけ主任と名刺につけてもらう。小生32歳、入社7年目。初めて旅券(パスポート)を作る。

1974年9月6~26日の3週間、訪問国はデンマーク、スウェーデン、フィンランド、オランダ、西ドイツ、フランスの6ヶ国、旅行費用は895,000円、全額会社持ち、これに小生には海外旅行準備金として7万円が会社から支給される。それでエースの大型スーツケースを買う。国内出張時に出張手当が支給されるがこれを貰ったかどうか記憶がない。当時海外への日本円の持ち出しは3万円まで、こっそりプラス α を隠して持っていく。当時平社員が出張するのも珍しく、上司や同僚から餞別を貰う、東京集合なので大阪駅まで部署の連中が見送りに来たり、帰りは伊丹空港まで迎えに来てくれたりと今では考えられないことだった。

会社へは帰国後レポートの提出が重くのしかかる、商品開発のヒントになるテーマを提案せねばならない、また参加各社の将来展望の方向性を聞き出すとともに懇意になり人脈作り、先進の訪問国の社会性、福祉社会の実情、経済の方向、公共および民間の住宅の現況と方向性、ユニットハウス(レジャー、カプセル、バンガローなど)や工業化店舗(勉強部屋や小売店)、庭周り商品(物置、ガレージ、カーポート、門扉、フェンスなど)の現況など視察、真面目に考えれば盛りだくさんの宿題を抱える。

帰国後に長大なレポートを会社に提出したがそのレポートが手元に残っていない、その時のメモを頼りに皆さんの興味ありそうなことをレポートする。

9月6日 夕方、羽田東急ホテルに集合、結団式、旅程、視察先の説明や、名刺交換などして22:30 羽田空港発、当時のヨーロッパの玄関口はオランダのアムステルダムだ。カナダのアンカレッジ経由、北極圏の広大な氷河上を飛ぶ、キラキラ光る氷の大地が 1/4

延々と広がる、世界にこんな大地があることに度肝を抜かされる。

アムステルダムスキポール空港で1時間半、乗り換えてデンマークのコペンハーゲンへは朝9時45分着、時差8時間、フライト計15時間。

この企画は会社への名目上の住宅事情の調査とゆう事なのでほぼ毎日建材などの展示場や建設現場、工場見学、会社訪問、役所訪問、ニュータウン、団地見学、パリではデファンス地区の都市計画等などの視察が計画されている。その間にここはという観光が組み込まれている。

デンマークはスウェーデン、ノルウェーとともにスカンジナビア3国と呼ばれている。

8～10世紀頃欧州を荒らしたバイキングの故郷、1933年には社会保障制度を完成、“ゆりかごから墓場まで”あらゆる社会福祉を利用できる、貧富に差の少ない国。

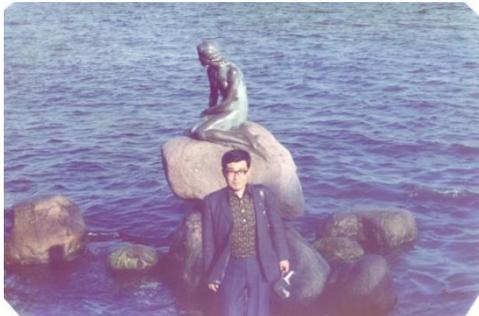
泥棒や強盗が皆無に近いという羨ましい国、

歩行者天国一車は通れない、ストロイェット（散策を楽しむ小道の意味）には土産物屋などが並ぶ、あちこちで美女がパントマイムをやっている。ホコテンは20数年後日本に登場する。

中央駅近くのIstedgadeの通りにはSEX SHOPのオンパレード、この通りでは女性も期待できるとか、大人でのナイトライフをオープンで楽しめる場所がある。離れの穴場にはそのものずばりのSEX SHOWが楽しめる。有志で参加する。ストーリー性があり、夫婦連れもいるアンデルセンの童話（「赤い靴」、「親指姫」）で名高い人魚像を訪れる。

ハムレットの舞台のクロンボルグ城がある。

世界的に有名な大遊園地のチボリ公園も訪ねる、各種遊具施設やコンサートホール、劇場もあり大人も子供も楽しめる。倉敷に20数年後同様な遊園地ができる。



アンデルセンの人魚像



宿泊の Palace hotel



歩行者天国

9月9日 **スウェーデン**のヨテボリに入る、この国の特徴は女性が“女”としてのハンディキャップを持たずに男と平等でなければ社会が維持できないという思想からフリーセックス（性からの解放）の思想が生まれる。男女が対等の地位・能力で働かねばならない。

そのために完備した社会保障制度、少ない労働時間など高度な生活水準を保ちヨーロッパ最高の国民所得を得ている。確かに工場見学時の生産ラインには男女が入り組んで仕事をしているのに驚く、官庁では女性の管理職も違和感なく見受けられた。

首都**ストックホルム**は“北のベニス”と呼ばれる美しい水の都、ノーベル賞授与式の会場として有名なコンサートホールがある、我々の宿はその前の古式な高級ホテルに泊まる。



9月12日フィンランドの首都ヘルシンキに入る、

フィンランドは正式な国名はスオミ共和国といい、スオミとは沼土の土地を意味し無数の湖と針葉樹からなっている。

ヘルシンキは別名“バルト海の娘”といわれ美しい森と湖に代表される、ロマンチックな白夜、ラップランドの狩猟（トナカイの群れ）、ここも他の北欧諸国と同様社会保障制度が発達、最低以上の生活を国民全部に保証している。労働者の生活水準は高いため労働争議はほとんどないという。土産に壁掛け用にトナカイの毛皮を買い、船便で送ってもらう。

8月16日 フランス、だだっ広いシャルルドゴール空港着、パリに入る、21日まで1週間滞在、パリと聞いただけでワクワクする。

仕事の視察はデファンス地区の新都市開発（官庁、企業を集めた超高層ビル群が建設中）モンパルナス地区の超高層ビルと再開発、建材、設備の展示場、工場見学など毎日視察する。眼玉の観光は美術館巡り（ルーブル美術館—ミロのビーナス、ミレーの晩鐘、印象派美術館—ドガの踊り子、ロダン美術館—考える人の彫刻、オリエント美術館）、ベルサイユ宮殿、シテ島のノートルダム大寺院、パリの象徴エッフェル塔、凱旋門（高さ50m、幅45m、ナポレオンの戦勝を讃えるため1836年建立）、モンマルトルのサクレ・クール寺院などたっぷり観光する。

宿泊のホテルが凱旋門近くのコンコルド広場（世界一美しいといわれる広場）だったので地下鉄など交通の便がよく一人での自由行動も慣れ小説に出てくるチュイルリー公園、ルクサンブル公園など朝早く起きて歩き回る。何もかも初めて体験、時間をフルに使う。

パリの最大の楽しみは世界最高のショーを楽しめる、シャンゼリゼ通り（凱旋門からコンコルド広場に通じる道幅100m、2Km続く大通り）に面するLIDOのショーへ、午後11か12時ごろ開園、夜中3時頃までである、テーブル席にはワインと食事付き、入場料が1万円か3万円だったか覚えていない、これは自費だ。フレンチカンカンから始まりトップレスの美女が次々あらわれ曲芸や踊りなど、途中白馬乗った人が舞台上を走り回ったり、へりに乗って会場を飛んだり度肝を抜かされる。飽きさせない。

食事ではフランス料理名物のエスカルゴ（カタツムリ）や牡蠣料理を食べる。



エッフェル塔 凱旋門



ルーブル美術館、



教科書で見た絵画を見る



ノートルダム寺院



ベルサイユ宮殿



広大な庭園が美しい

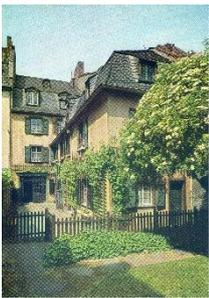


パリ・LIDO のショー

9月21日 **西ドイツ** デュセルドルフ入り、22日首都、**ボン**に入る。

第2次大戦後ドイツ連邦共和国（西ドイツ）とドイツ民主共和国（東ドイツ）に分かれ西ドイツは積極的重工業化と重化学科化の推進で、驚異的な経済復興と発展をとげてきた。ボンではベートベンの生家を訪れる、ライン川添いのケルン市のランドマークのケルン大寺院DOM（ヨーロッパ北部では一番大きいゴシック式の寺院）を観光する。昼食はライン川沿いの古城のレストランです。

9月24日 **オランダ**、**アムステルダム**へはバスで入国。オランダは正称をネーデルランドという、日本とは長い鎖国のあいだも長崎の出島を通じ通商が行われ、ヨーロッパ文明が紹介されたなじみ深い国だ。国土の半分以上を干拓によって緑地に変えた人工の国、自然との戦いで運河があり、風車があり、それがオランダの魅力となっている。我々の降り立ったヨーロッパの玄関口ロスキポール空港はかつて湖があったところで海面下40mと聞いて驚きだ。それにチューリップはあまりにも有名だ。視察の合間に運河めぐりの観光もこなす。それにナイトライフ、大人の名所として運河沿いにある“飾り窓”は2~300mもあつたか2階立ての大きな窓ガラス越しに赤い照明のなかでネグリジェ姿の女性たちが客待ちをしている、通りに日本のような各引きはないし政府公認なのかほぼ全世界の女性がいるとか、SEX SYOPなどもこの船乗り地区に集まっている。



ドイツ・ボン ベートベンの生家

ボン・ケルン大寺院

それにしても6か国通貨を現地通貨に両替して、行く先々で土産を買うのに小銭が必要になりコインなどが残る、土産として持ち帰る。土産といえば関係上司や同僚へ30数点、家族、親族に20数点、何がいいか選ぶのに大変頭を悩ませた。

当時見聞きしたものが数年後、10数年後日本で商品化されたたり、導入されたことを知ったのも多い。住宅用のシャッター雨戸や設備（高層住宅のダストシュートやごみを燃料に高層住宅に熱源を供給したりなど）、大型DIY等々。

足早に6ヶ国をたった2~3日おきに訪問したが先進国の生活の豊かさや文化、歴史を少しだが感じ取る。感受性豊かな若い時に外国に行き知ることの必要性を感じた旅だった。

山？とハーモニカと音楽について

船津 主税

まず日頃の筆無精から春秋への消極的参加をまずお詫びしなければと思います。

八剣山の会春秋の内容としてふさわしくないと思いますが、ハーモニカについて寄稿してはどうかというご提案をいただきましたので、そのお言葉に甘えて私の今までのハーモニカに対する取り組みと申しますか、音楽に対する思いの一端を書いてみたいと思います。

そもそもハーモニカを吹いてみようというきっかけは、山の会の参加は加齢に伴う腰痛の発症で難しくなってきたという虫の知らせと元々音楽は大好きで何か手軽な楽器をやって合奏やアンサンブルを皆さんと一緒にできたらいいなという思いが、たまたま OB 会の中にそのサークルがありましたので参加したことが始まりでありました。好きな曲を好きな時に演奏できて楽しいひと時を過ごせたらと思っていましたところ、半分はその思い通りでありましたが、あとは会の皆さんと演奏会のための妥協の選曲とその演奏の繰り返しの練習が中心になりましてなかなかハードなことだと少々疲れ気味の今日この頃でございます。

せっかくの機会ですのでハーモニカについてまずその種類や歴史、効能について触れてみたいと思います。

■種類はソロ用では、複音ハーモニカ（上下の穴の中にそれぞれ一枚ずつ二枚のリードがあって、すこしその響き方に差をつけることによりビブラートがかかって深みのある響きを生み出している）と単音ハーモニカ（10穴のブルースハーモニカ、ハーモニカ本体の右にレバーがあってプッシュすると半音上がる音が出るクロマティックハーモニカ）があります。またアンサンブル演奏の伴奏楽器のとしてコードハーモニカ・バスハーモニカがあり、専用のマイクロフォンをつけてアンプに接続しますと深みのあるアンサンブル演奏が楽しめる大型のものもあります。



複音ハーモニカ



ブルースハーモニカ



クロマティック
ハーモニカ



コードハーモニカ



バスハーモニカ

■ハーモニカの歴史は1820年にドイツでオルガンの調律の道具として作られ、1824年に吹くだけのハーモニカが誕生、今の吹く吸うタイプのものできたのは1827年です。日本への渡来は明治24年（1891年）マンドリン奏者比留間賢八先生がドイツより持ち帰ったのが最初です。

国産は明治35年玩具卸問屋の真野商会（トンボ楽器）がホーナー社の不良品を買い取り修理、玩具として売り出し、その後大正6年に製造を開始しました。

■次に健康に対するハーモニカの効用です。まず唾液の効能ですが唾液に含まれる抗菌物質が傷ついた組織の修復（口内炎、口臭防止、虫歯予防）に、更年期障害の初期症状の口の渇きを癒すことに、さらに多くの唾液で活性酸素を消去（老化防止）、また唾液の多い人にDHEAホルモンが多くあり長生きに効果があるといわれています。特にハーモニカの演奏方法がアンチエイジング体操に最適だといわれています。

ということで良いことづくめですが、でも私はハーモニカを吹いた後、手入れをしなければやっぱり雑菌の温床になると思いますので、ハーモニカを吹いた後は希釈したアルコールを吹きかけて手入れしています。

次にハーモニカの楽器について複音ハーモニカを中心に少し詳しく触れたいと思います。ハーモニカは吹く吸う動作で音を奏でるわけですが（バスハーモニカだけが吹く動作だけ）、このような吹く吸うことで音を出す楽器は他にはほとんどありません。また欧州で作られた他の吹く動作のみで音を出す楽器はトランペット・クラリネット・フルートなどだいたいオーケストラでの楽器に採用されていますが、ハーモニカはその音色のせい、手軽さのせい、陽の目をみたタイミングのせいかわかりませんが採用されていません。しかしその音色がエレジーの曲想に合うのでしょうか近年ホークソングだとかブルース・ジャズなどに使われるようになっていきます。

加えてハーモニカの音域、音程からの特徴を申しますと、ハーモニカの手軽さの特徴のために一本のハーモニカが奏でることのできる音域が小さいこと、また音がでるリード部分が耐久性能上金属（真鍮製）でできているので演奏の難易度から最もポピュラーなハ長調（C）のハーモニカの音程はピアノの高音部と同じ位置になっており、ハーモニカで伴奏されると歌いづらいことに気が付かれると思います。（ピアノの中音と同じ位置に設定するとハーモニカの低音部のリードが分厚く大きくなって演奏しづらくなる）従って複音ハーモニカは演奏曲によって音域を下げたいとき、半音域を演奏したいとき、またメジャー、マイナースケールで演奏したいときはそれぞれに適應できるハーモニカの種類を使わねばなりません。手軽さゆえに演奏しやすき音域に合わせてのハーモニカを選択したくさんの種類を持つのは大変ですね。複音ハーモニカの種類は基本的に12音階にメジャー、マイナー音階用として24本の種類があります。でもだいたい6本ぐらいあればまずまず行けると思います。

それからハーモニカが演奏に使うための楽譜について少々、一般的には演奏は音符 ♪ と五線譜の楽譜を使いますがハーモニカは数字を「ドレミ…」の音に合わせて「1, 2, 3…」と数字で表す数譜を使っています。多分誰でも取り組みやすいようにということでそのようにしているのではと思いますが、問題は同じ数字で表現するために中音部か高音部か低音部かがわかりにくいところです。数字の上下に点をつけてそれを表していますが、わかりにくく間違いが多いのが難点ですね。

また複音ハーモニカの音色は構造上アコーディオン音が奏でる音色に近い気がします。従ってシャンソンやタンゴなどの曲はハーモニカにとっても演奏しやすいというより違和感なくうまく聞こえる曲目が多いのではないかと思います。と申しましても実際の演奏は中々難しいですね。

以上がハーモニカに触れて学んだこと、感じた事です、もう一つ大事なことがあります。それは音楽に対する知識です。今まで音楽って詳しく触れていなくても好きな曲を好きな時に聞けばそれでよかつたし、ソロで演奏するのは勝手気ままに演奏すればよかつたのですがアンサンブルで演奏しようとしてみますと音楽の基礎知識をしっかりと身につけないと聞いて堪える演奏ができないことがよくわかりました。どんなことでも同じだと思いますが、基本が大事ですね。そのことを理解して初めて一緒に演奏する皆さんと同じ認識ができてそれなりの演奏ができるということですし、より楽しく愉快に心をつにしての演奏ができてさらに聴いていただいた方からの反応がありますとさらに楽しくなる、これが醍醐味ですね。

このことから耳にする曲目に対してハーモニカ演奏にいい曲かどうかにも気になりますし、また楽曲に対する聴き方も変わってくるような気がします。特に必然的な「古い」に対するボケ防止には最適だと思いました。

もう一つタイトルの「山？とハーモニカと音楽について」の「山」ですが手軽なハーモニカを山へもって行って自然の中で吹きまくるこれが素晴らしいと初めは思っていました。やっぱり楽しいのは先程来申していますアンサンブルです。その練習のために CD をかけて吉野の山奥で周りに気兼ねなくしっかり吹きまくるこれが一番と思ってこの題目にその「山？」をいれたんですが、実は女房殿に「うるさい！大事な TV 番組があるときは練習しないで！！！」と言われてすごすごとハーモニカをしまってしまう今日この頃です。でもハーモニカは手軽で楽しいので皆さんと一緒に吹いてみませんか？お誘いいたします。奥様に内緒でね……。

おわり

文祢麻呂と太安万侶の墓誌について

2015、11、12 安田 享

墓誌とは、金石に死者の事跡（氏名、位階、経歴、功績など）をしるして墓に埋めたもの。飛鳥時代の文字が記されたものは、事例が少ない。古代、中央政界の著名人以外の地域の人の事跡をしるうえで貴重。

榛原出土として文祢麻呂の墓誌（国宝）がある。

「壬申年將軍左衛士府督正四位上いみきけいろうん文祢麻呂忌寸慶雲四年歳次丁未九月さいじひのとのひつじ廿一日にじゅういち卒みかまる」
出土は、榛原八滝米山で天保二年に発見され、現物は、東京国立博物館保管。現地には、整備後の文祢麻呂墓と説明板がある。

壬申の乱（672年）の折、大海人軍が宇陀の地を通路に選んだのも宇陀の地で兵馬の調達を事前に計画していたのではないか。当時、内牧川流域では、牧馬の生産が営まれていた。

文祢麻呂は、渡来系氏族の西文氏かわちのみみうじの出身で一族の一部は、檜牧や内牧に広大な牧場を営んでいた。壬申の乱の軍功により、貴族に取り立てられた。以上の経緯から墓が八滝に埋葬されたと思われる。墓は、火葬。日本での火葬の始まりの頃。ちなみに大海人（天武天皇）は、土葬。同じ墓に埋葬された大海人の妻（持統天皇）は、火葬。火葬は、仏教とともに伝えられた外来文化であり、日本で最初に火葬されたのは、飛鳥寺東南禅院を開いた、僧道昭（700年没。行基ぎょうきの師）とされている。

太安万侶の墓は、1979年（昭和54年）奈良市東部の大和高原（此瀬町）の茶畑で地元の人が偶然、発見した。火葬された骨とともに墓誌発見。

「左京四條四坊しほうじゅうし い げ從四位下勳五等太朝臣安萬侶おおのあそん やすまろ以癸亥年七月六日卒みかまる之 養老七年十二月十五日」
癸亥年は、干支年。養老7年は、年号年。同じ年で西暦723年。七月六日に亡くなり十二月十五日に火葬。

それによると太安万侶は、平城京左京四條四坊、今のJR奈良駅西側の宅地。平城遷都直後に正五位上を賜っている。宅地班給基準によれば、1町程度の宅地（133m×133m）。約5300坪。広い敷地が支給されていたものだ。古代は、格差社会。なお五位以上が貴族。貴族が死亡すると正史に記録される。続日本紀の七月七日の記録に民部卿・從四位下太朝臣安麻侶やすまろが卒したとある。

民部卿は、民政・財政を担当する中央行政官庁の長官。

太安万侶の墓のある田原には、万葉集で著名な志貴皇子しきのみこの墓（田原東陵）やその子、光仁天皇の墓（田原西陵）があり、平城京東方の葬地として認識されるようになっている。（車で奈良市まで行く機会があれば、水間トンネル経由で）

太安万侶墓誌は、重要文化財で文化庁所有・奈良県立橿原考古学研究所附属博物館保管。現在、同博物館にて常設展示。（近鉄橿原線畷御陵前駅西南徒歩7、8分）

「古事記」序文によれば、和同4年（711年）9月に元明天皇が、太安万侶に「稗田阿礼ひえだのあれが誦める勅語の旧辞を撰録して献上せよ」と命じ翌年正月二十八日に古事記を献上。

小治田安万侶墓誌

奈良市都祁甲岡町出土。重要文化財。東京国立博物館所蔵。

「^{うきょう}右京^{じゅよんいげ}三条二坊^{おはりだ}従四位下^{やすまる}小治田朝臣安万侶^{やまとのくにやまべのこうりつげのこうおかやす}大倭国山辺郡都家郷崗安墓^{じんぎ} 神亀六年歳次
己巳^{つちのとのみ}二月九日」

右京三条二坊は、今の近鉄西大寺駅南方。従四位下は、太安万侶と同じ。蘇我氏の同族小治田の中で安万侶は、例外的に栄進した奈良時代の官人（役人）。神亀六年（729年。聖武天皇の年号）神亀は、元正女帝が^{げんしやう}首皇子^{おびとのみこ}に譲位したことにより改元。歳次（「ほしやどる」中国・則天武后にならい一時期年号につけた）

▲ 現地への行き方（参考）

○文祢麻呂の墓跡

榛原八滝。国道369号新堂芝（内牧の手前）から八滝集落に。細い道。地元の人に聞く。地元八滝では、著名人。

○太安万侶の墓跡

榛原から香醉峠、針インターを越え国道369号を上水間まで直進。

上水間で左折、水間トンネルを越え県道47号天理加茂木津線の交点を越えたすぐの日笠交差点で細い県道183号日笠東金坊線に入る。交差点に小さい看板。この日笠交差点から約1.5^キで太安万侶の墓。現地に説明板。

○奈良県立橿原考古学研究所付属博物館

橿原市畝傍町。近鉄橿原線畝傍御陵前駅西側300m。常設展示。古代の考古資料展示。駐車場無料。一見の価値あり。

○^{おお}多神社

有力氏族。多（太）氏の神社。現在も末裔が神主。田原本町^{おお}多。字の名。

多神社には、太安万侶の碑や説明書き。

近鉄橿原線笠縫駅南西1キロ。県立高等養護学校の西。県道50号と飛鳥川の交点南。

県心身障がい者福祉センターに飛鳥川を隔てて東側。

○^{ひえだのあれ}稗田阿礼

一度聞いたことは、忘れない記憶力の持ち主。口伝えできた伝承を稗田阿礼が口誦し、太安万侶が筆記し、古事記として編さん。JR郡山駅南東1キロの売太神社に稗田阿礼の誕生地の説明板。地元郡山市、商工会議所では、記憶大会、阿礼音頭など阿礼祭。稗田は、中世の環濠集落でも有名。

(完)



(紀行文)

能登半島を巡る旅

2015. 10 金城 清三

8月末、友人と二人で二泊三日の能登半島巡りの旅に出た。

ともに古希を迎えた去年は、念願の白馬岳へ登頂、次はどの山を目指そうかと喜びあったものである。ところが、今年になって二人とも足腰に異変が……。山は辞めてツアーでの能登巡りとなった。

どちらも能登半島の付け根までは行ったことはあるが、それから先は未知の世界だけに期待が脹らむ。頃は良し。石川さゆりの唄う「能登半島」の歌詞のとおり♪夏から秋への能登半島♪でも、ちことは艶歌の世界ではない。

大阪を昼過ぎの出発。特急サンダーバードとバスを乗り継ぎ「能登ロイヤルホテル」へ到着。田園地帯にある立派なホテルである。1階のエレベーターの前に掲示してある歓迎の言葉の中に、江戸時代から伝えられている「能登はやさしや土までも」の諺を紹介している。能登入り早々、楽しみが募る。ちなみに能登の里山、里海は世界農業遺産に認定されているそうである。(世界では9カ国、先進国では初)

翌日の早朝、ホテルの屋上から望む能登は快晴。遠くの山の上で風力発電の風車がゆっくり廻っている。 新涼や能登の山並高からず 凡生

今日のコースは、輪島の朝市と千枚田、そして能登半島の最先端、禄剛崎などをバスで巡る。バスは先ず輪島へ向かう。実りの秋を迎えて黄金色の稲穂が眩しい。ホテルの諺を拝借して一句。 土までも優しき能登や豊の秋 凡生

輪島の朝市に着くと、添乗員のお姉さんが『売り子のおばちゃんの中には熱心のあまり腕を捕まえて離さないのもいるから注意して!!』と、アドバイス。そして、朝市に入ると、日焼けして逞しいおばちゃん達のわめく声が左右から飛んでくる。旬の野菜や日本海で獲れた魚が屋台に盛られている。

自分の考えていた朝市は、もっと狭く客同士が肩の触れ合うイメージだったが、こちらは道路幅が広く、道路は綺麗に舗装されている。輪島の朝市はハイカラである。奥行きのある朝市から手前の露地に入ると、開けた波止場に出た。輪島は日本海に面した漁師町でもあったのだ。鳶が上空で舞っている。

秋晴れの輪島朝市磯の香も 凡生

日焼けして声も逞し朝市女 //

朝市を覗くとんびや秋高し //

法師蟬能登の墓石に南無阿弥陀

千枚田も日本海に面して、実りの秋を迎えていた。展望台から見下ろす千枚田は黄金色に輝き、白波の打ち寄せる海へ落ちる。この光景にあちこちで歓声が挙る。添乗員のお姉さんに記念写真を頼む。『千枚田をバックに二枚目に撮って

ほしい!』すると彼女『お二人さんはどう見ても三枚目ですよ!』と諫められ、ぎやふん。先ほど車中でやり込めた冗談のしっぺ返し?

土用波寄せるそこから千枚田 凡生
千枚田黄金の稲は汀まで 〃
能登の秋飛行機雲の交差して 〃

さて、いよいよ能登半島の先端であり断崖の最北端碌剛碕(ろくごうぎき)である。ここからは、晴れた日には海上の七つの島や立山連峰、佐渡が島を遠望できるという。なるほど北の方には佐渡の島影が見えた。10月に別の仲間と予定している旅の目的地でもある。おかげでその旅への思いも深まった。

ここには英国人のデザインである白亜の素晴らしい灯台が立つ。

そして昭和36年、この地に立って最果ての感傷を詠んだ俳人山口誓子の句碑が立っている。

ひぐらしが鳴く奥能登のゆきどまり 誓子

ここの灯台の所在地は珠洲市の狼煙町(のろしまち)にある。灯台ができた百十年前までは、ここでは狼煙を上げていたのであろうか。

野山越す葛も岬でゆきどまり 凡生
奥能登の岬に帰燕またおいで 〃
次目指す佐渡の島影土用波 〃
奥能登に誓子の句碑や葛の花 〃

今日は旅の仕上げの三日目。ホテルの屋上展望台に上がると低い山並に朝霧がかかっている。今日も秋晴れとなりそうだ。

朝霧や能登の山野をひと隠し 凡生

昨日からは地元の観光バスでの案内だが、今日は趣向を凝らしてローカル線の「のと鉄道」に乗せてくれた。乗車時間は僅か20分だったが、半島の東側を北上して、ヤセの断崖など西側に無いおだやかな海を楽しませてくれた。

なるほど、琵琶湖を思わせるような七尾湾は静かに凪いでいる。牡蠣の筏が整然と浮いている。単線のローカル線のふさわしいのどかな風景である。

さらに北上すると、「ボラ待ち櫓(やぐら)」が見えてきた。初めて見る漁業用の櫓である。櫓の上で終日、ボラの群れを見張り網をたぐるという漁法である。平成8年を最後に、現在は使われてないそうだが漁業遺産とでも言うのだろう。長閑な時代の風情が偲ばれる。

再びバスに乗り、阿岸本誓寺・ヤセの断崖・気多大社・千里浜なぎさを巡った。

ボラ待ちの櫓は凪の七尾湾 凡生
色変えぬ松は傾き日本海 〃
義経の舟隠しとや昼の月 〃
浜昼顔ヤセの断崖辿る道 〃

はまなすや砂は微塵の千里（ちり）が浜
阿岸本誓寺にて
茅葺の大屋根百合を群れ育て 凡生
加賀温泉にて
虹立てり大観音の背（そびら）より //

変化に富んだ能登半島を堪能した旅は、加賀温泉駅から再び特急「サンダーバード」で帰途につく。暮れて滋賀県の入ると、折しも名月が琵琶湖の湖面を照らしている。堅田の浮御堂はどの辺りか、芭蕉の句<錠明けて月さし入れよ浮御堂 芭蕉>の句を思い出す。

そして名月は我々の旅の終わりを見届けるかのように・・・・・・・・。

名月を仰ぎて終える能登の旅 //



ボラ待ち櫓（やぐら）七尾湾



輪島の千枚田

(完)

私の余生は古い仕度（その 12）

2015.11.20 須藤和雄

3ヶ月前に発行された本誌「2015 秋季号」の編集後記で・・・

『**四季の変化に敏感で気になることがあれば現場へ出向いて確かめる**』
その実行力は、私にはとても真似できません。
天満台の水が宇陀川から名張川を経て木津川から淀川へ。
文字どおり紆余曲折を経て大阪湾へ。それを追っかけた写真も又素晴らしい。
とても古いの余生とは思えない元気印でした。 (by 編集長)

・・・とお褒めのコトバを頂戴しので能天気にもその気になって
まず[《水の旅 from 天満台》](#)の続編として本エッセイを綴ることにした。

朝の散歩中に思い付いた。

天満川から大阪湾までは確認出来たがその上流は如何？

「**気になることがあれば現場へ出向いて確かめる**」の癖により
確認記録を試みた。

そしてその記録ムービーのタイトルは[【天満川の源流を訪ねて】](#)とした。

更に「**四季の変化を感じて現場へ出向いて確かめる**」の例として

今年 2015 年に撮った写真で振り返って見るたら・・・

[【冬春夏秋 2015】](#)のフォトアルバムになった。

↑

クリックすると NIKON IMAGE SPACE に繋がるがここでは

- スライドショーでも楽しめる。
お好みで ①切り替え方法 ②切り替え速度 ③BGMの選択が出来る。
- 気に入った写真があればダウンロードもOK。
(登録写真は 82 枚、暇な時にでもご笑覧下を～)

こんなエッセイを綴るのは無意識のうちに本エッセイシリーズ（その 11）で述べた「老態自己観察と記録」を実行しているのかも知れない。

※エッセイとは自由な形式で、気軽に自分の意見などを述べた散文。随筆。
と物の本に書いてあるので「勝手な安堵感」を覚えている。(言い訳?)

最近送信するメールの署名に

= 来年は6回目の年男になる=
須藤和雄でした <m()m>

を加えて楽しんでいる。

また、来年の年賀メールのデザインを下図の様に検討中であるが



年賀メールには次のコメントを加えたいと思っている。

今年は6回目の年男です。
雑で凡な暮らしを続けます。7回目の年男は夢見ていません。
逝く時が分からないから頑張れる心境です。

(その13)へつづく

2015年「八剣山の会」活動実績

2015.11.30 現在

2015年<<お互い大事にしたい合言葉>>
“身の丈に合った行動の多様性を楽しもう！”
そして“今年も伸ばそう、健康寿命”

【参加者数】

- | | |
|-------------------------------|-------------|
| ●1月30～31日(土) カニ&温泉ツアー(1泊2日) | 企画案内：林田【10】 |
| ●2月14日(土) 観音峰登山 | 高見【4】 |
| ●3月12日(木) 早春の大覚寺&嵐山ハイク | 安田【7】 |
| ●3月26日(木) 六甲縦走シリーズ part2 | 須藤【5】 |
| ●4月9日(木) 多武峰-明日香ウオーク | 須藤【7】 |
| ●4月23日(木) 琵琶湖シリーズ part5 | 美浪【5】 |
| ●5月12日(火) 壺坂・高取山 | 金城(雨天中止) |
| ●5月27日(水) 大普賢岳登山 | 木山【8】 |
| ●6月4日(木) 桧塚奥峰登山 | 須藤【4】 |
| ●8月2～4日(火) 妙高山(百名山)登山 (2泊3日) | 高見【8】 |
| ●9月17日(木) 若狭富士(青葉山)登山 | 高見(雨天中止) |
| ●10月8日(木) 伊勢本街道シリーズ part5 | 須藤【5】 |
| ●10月24日(土) 武奈ヶ岳登山 | 原【5】 |
| ●11月19日(木) 京都一周トレイルシリーズ part4 | 美浪【6】 |
| ○12月17日(木) 都祁富士(都介野岳)登山+納会 | 須藤 |

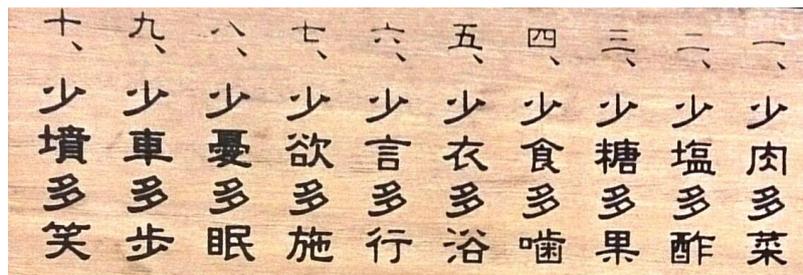
※記録ムービーへのアクセスはYouTube再生リスト『[八剣山の会2015](#)』

<<八剣山の会春秋>>

第9号(春季号)、第10号(夏季号)、第11号(秋季号)、第12号(新年号)発行。

※バックナンバーアクセスは [～春秋サロン～](#)

以上



2016年「八剣山の会」活動計画

2016年<お互い大事にしたい合言葉>
“身の丈に合った行動の多様性を楽しもう！”
～登りたい山と登れる山は異なる～
いくら山好きでも単独登山は危険、お互い避けよう。

★2015年10月21日の「2016年計画検討会」で決定した活動計画です。

- | | |
|-------------------------------|---------|
| ●1月29日(金) 金剛山登山 | 企画案内：木山 |
| ●2月16～17日(水) 武奈ヶ岳登山 | 原 |
| ●3月2日(水) 筆捨山登山・関宿散策 | 安田 |
| ●3月16日(水) 六甲縦走シリーズ part3 | 真田 |
| ●4月2日(水) 高取山登山・明日香散策 | 金城 |
| ●4月20日(木) 琵琶湖シリーズ part5 | 美浪 |
| ●5月10～11日(水) 大峯奥駈道(洞川→吉野) | 須藤 |
| ●6月8日(水) 国道308号 暗峠越え | 原 |
| ●7月13日(水) 琵琶の滝(川上村) | 野田 |
| ●8月1～3日(水) 西穂高岳(百名山) | 高見 |
| ●9月(日程未定) メコン川探訪 | 小西 |
| ●10月5日(水) 伊勢本街道シリーズ part6 | 須藤 |
| ●10月19日(水) 稲村ヶ岳登山 | 安田 |
| ●10月16日(日)予定 ダイヤモンドトレイル縦走大会参加 | 上岡 |
| ●11月2日(水) 京都一周トレイルシリーズ part5 | 美浪 |
| ●12月15日(木) 伊奈佐山登山+納会 | 木山 |

《運用上の留意事項》

1. 具体的詳細案内は実施日の一か月以上前に現在と同じ方法で知らせる。
2. 現地の調査結果等の検討により、企画案内者の判断で次の変更/設定がある場合がある。
・目的地
・実施日
・予備日の設定
・反省会の有無
・参加申し込み締め切り日の設定(予約や車手配を配慮)
3. 原則、前日天気予報、午前または午後の降水確率50%以上は自動的に中止。
又は予備日を設定している場合は延期とする。
4. 企画案内者は登山スピードの調整等チーム登山の配慮をする。
5. 登山届けを提出する。「緊急連絡先」記入が必要な場合は企画案内者が不参加会員の中から選定、依頼して対応する。

以上

八剣山の会「2016年計画検討会」

《 日時 》 2015年10月 21日 (水) 10時 ~ 14時

《 会場 》 天満台西公民館

《参加者》

上岡啓二、木山裕昭、小出雅康、小西益樹、金城清三、里中 晋、
真田一郎、野田庄次、橋本眞幸、林田俊彦、原政雄、船津主税、増谷育男、
三明博夫、美浪敏明、安田 享、高見 毅、須藤和雄 《計18名》

《 議題 》

1. 近況説明及質疑応答
2. 2014年の実績と今後の予定
3. 2015年の計画検討



登山計画の配慮点

●移動手段

- ・自家用車は極力避け、公共交通機関を使う
- ・タクシー、ロープウェイ等の積極活用

●登山ペース

- ・無理な日帰り登山は避け、宿泊登山とする
- ・コースレート×1.5を目途とする

●登山コース

- ・エスケープルート、下山待ち受けを極力考慮する

以上

「伊勢本街道ぶらり旅パート5」俳句

平成27年10月 金城凡生

秋晴れの伊勢みちへ、須藤・野田・安田・上岡・金城の5人が参加しました。幸いに天気にも恵まれ、かつてのお伊勢参りで賑わった<伊勢みち>の面影に浸る旅でもありました。

秋晴や伊勢路楽しも五人衆
峠路で吹かれていたり秋の蝶
むかご摘み伊勢路土産としたりけり
秋晴の伊勢本街道十五キロ
水澄める伊勢旧道は今もなほ
鈴付きの杖でもてなす登山道
廃屋の屋根に群るるや赤トンボ
手入れ無き里の茶の花けなげなり
むかごかと摘まめばなんと蝸牛
秋日和伊勢の道みち俳諧句
廃屋のあまた軋ませ野分かな
父祖なげく捨田に揺るゝ枯すすき
秋冷の早き訪れ宇陀伊勢路
秋高し岩峰鋭き曾爾の山
秋冷や伊勢路に欲しき峠茶屋
秋晴といえど閑散道の駅
伊勢みちの石碑ついでむ寒鴉

野田さんで2句

秋深む伊勢路に独りもの思ふ
賑やかなこの人にして秋思（しゅうし）かな
伊勢宿場跡のきらめき花魁草（おいらんそう）
~~~~~

伊勢みちで見つけた俳諧師福井一步の句  
<大方は泥搔き廻す田草取り 一步> (完)

---

編集後記：平成28年にして昭和91年の申年を迎えました。皆さんおめでとうございます。「八剣山の会春秋」新年号をお届けします。本年も本誌へのご協力とご愛読をお願い申し上げます。▲本誌は発刊4年目、通算12号でございます。その編集委員は須藤・小西・高見・木山・増谷・金城の5名でございます。今年もよろしく申し上げます。▲今年初の表紙は小西さんの力作、普賢菩薩の名を冠した私達にはおなじみの、「大普賢岳」の威容です。力強く堂々たる山容は新春を飾るのにふさわしい画だと編集委員一同の感想。▲今号のトップ記事は、「記憶に残る登山シーン」のタイトルで、美浪画伯の水彩画5点です。まず「弥山川の梯子」。梯子を登っていく人の動きに迫力があり素晴らしい。そして「堅田の浮御堂」は私も参加した「琵琶湖シリーズPart 5」の情景ですが、作者自身も語っている落雁（らくがん）、これから北の国に帰る前に琵琶湖の浮御堂へ別れの挨拶をするシーンかもしれません。＜帰る雁三羽飛び立つ浮御堂 凡生＞そして、「百名山に相応しい懐深い変化に富んだ山（美浪談）」。特徴ある「妙高山」の山頂の姿も参加者にとっては長く記憶に残ることでしょう。▲名山男、林田さんの「初めての海外旅行・・・」も興味深く楽しい記事でした。今回は山から降りて？仕事がらみの海外旅行初体験の話。若干32歳にして、大手企業の幹部連中との豪華なヨーロッパ旅行。この旅行がきっかけで後の海外登山への道が開かれたのでしょうか。▲安田さんの「文祢麻呂（ふみのねまろ）と太安万侶（おおのやすまろ）の墓誌について」は、古代の難しい人名や地名にルビをうっての原稿はご苦労さまでした。地元榛原との深い関わり合いのある歴史上の人物を私は知らず良い勉強になりました。別の安田さんの歴史教室を兼ねた山の会の行事も加えたら有難いのですが。実現したら喜んで参加します。▲船津さんの寄稿「山？とハーモニカと音楽について」読んでいて少年時代の思い出が蘇りました。学友の吹くハーモニカに魅せられ、貧乏世帯の親に無理言って買ってもらったものです。そして学友に教えてもらって熱心に吹きまくったおかげで、やっと♪ふるさと・朧月夜・赤とんぼ♪などが吹けるようになり楽しんだものです。▲去る10月、会員18名が参加して作った「2016年八剣山の会活動計画」は、本誌に発表してあります。身の丈に合った行動、そして登りたい山と登れる山の違いを分別し、今年も楽しく山の会の行事に参加してください。▲この会誌も更なる飛躍と充実した内容を目指して編集員一同取り組んでまいります。皆さんには「山の会行事の参加記事」「趣味」「私の宝物」「旅行の紀行文」など多彩な寄稿をお待ちしております。「次回春季号は原稿締め切り2月末。発行日3月20日です。最後になりましたが、この一年皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。金城

---